

NCC(日本キリスト教協議会) 宗教研究所の留学生プログラム

キリスト教が母胎である研究所を当国際
仏教文化協会が支援することに首をひねる
方もいらっしゃるでしょう。そこで、
少し詳しくこの研究所のことを紹介しま
す。

キリスト教を大きく分けると、ギリシア
正教会やロシア正教会といった東方正教
会、ローマ・カトリック教会、ルター派や
改革派といったプロテスタント諸教派があ
ります。こうしたキリスト教の諸教会は、
戦後になって、二度も世界を巻き込んだ大
戦に対して、一致反対して止めることがで
きなかったことに真摯に反省悔悟し、人類
の悲劇に対して宗派・宗教を超えて対話・
協力していく方針を出します。パチカンと
いう中央組織を持つカトリック教会は、平
均すると100年に一度ほどのペースで数
年間にわたり開催される公会議で、諸宗教
との対話・協力の宣言を出します。日本の
仏教諸宗派のように別々の組織である正教
会やプロテスタント諸教派は、世界教会協
議会(WCC)というキリスト教版国連の
ような教派連合的組織を創り、同様の見解
を採択します。全世界で約20億の宗教人口

を持つキリスト教が、積極的に仏教に関心
を開いた端緒がここにあります。このWC
Cの日本での組織がNCCであり、日本の
諸宗教の研究、そして対話・協力を進める
ため、日本仏教の本山が多く集まる京都に
創られたのが、NCC宗教研究所です。英
文学術誌「Japanese Religions」には海外の
著名な日本仏教研究者が寄稿し、龍谷大学
や仏教大学などの宗教系大学、各本山が付
置する研究所との関わりも深い研究所で
す。国際仏教文化協会の元役員の先生方も
講義や講演などをされてきました。

そのNCC宗教研究所では、ドイツから
の要請を受けて、年に数人の優秀なヨーロ
ッパの学生を受け入れ、日本の諸宗教を本
格的に学ばせる留学生講座を、十数年前に
立ち上げました。それまでの研究・教団レ
ベルでの交流を進めることに加えて、若い
学生の時点からその芽を育てる試みです。
宗教間の対話・協力にとって、その前提と
なることは、まずその宗教に関して正確で
体系的な知識を学び、その宗教者を実地に
知ることです。この留学生講座では、日本
の諸宗教に関するコースの講義カリキュ

ラムと、各本山・本部での実地研修を実施
しています。仏教と仏教民間信仰、対話理
論に関しては、ロバート・ローズ、トーマ
ス・カーシュナー、マイケル・パイ、ベテ
ロ・クニヒト、ヤン・ヴァン・ブラフト、
水垣渉といった先生方が主講義を担い、各
専門領域に関しては関西一円の各宗教系大
学の教員が講義してきました。火曜日から
金曜日は講義で、月曜日には研修という、
みっちりトスケジュールの詰まったセメス
ターを学生は経験します。そして、帰国
後、彼らはそれぞれの専門分野での研究を
続け、聖職者、研究者や教員となり、仏教
との相互理解の活動を進めています。日本
浄土教をテーマに修士論文を書く学生や、
近代日本仏教を専門分野とする研究者も育
ちました。日本の仏教をテーマとする論文
数が増えることは、そのまま日本仏教の認
知度が上がることを意味します。ヨーロッ
パ真宗会議に参加する学生もいました。

国際仏教文化協会は、NCC宗教研究所
のこうした活動に対して、仏教に関する講
義と研修を助成します。公益財団法人とし
ての懐の広い、そして遠い将来も見据えた
ヴィジョンをもって、大乘仏教、日本の浄
土教の思想・文化の振興・発展に力を尽く
すものです。

(寺本知正)